

街道東城路・街並み通信

vol. 3

～街道東城路周辺地区 魅力ある街並みづくりと地域の活性化 ワークショップについて～

平成28年2月 発行：庄原市都市整備課

街道東城路周辺地区において、歴史的な街並みの魅力を更に高めるとともに、賑わいの創出や住みよさの向上を図るため、住民や関係団体等の皆さんを中心としたワークショップを、今年度・来年度で開催します。ワークショップでの意見・提案をもとに、庄原市として具体的な施策・事業を検討するとともに、地元住民・事業者等の皆さんによるまちづくりの取組を促進します。なお、**第3回ワークショップ**は2月12日（金）に開催しました。

今回は、アンケート調査結果の説明などの後、東新会の榎原代表に『東城における街並みづくり活動』についての報告（講演）をしていただきました。その後、4つの班でアイデアや取組について意見を出し合い、掘り下げました。

第3回ワークショップのプログラム等（要点）

～まちづくりのアイデアを掘り下げよう（その1）～

日時：平成28年2月12日（金） 19:00～21:10 会場：東城自治振興センター
参加者：住民・関係団体等の皆さん11人、アドバイザー2人、広島県3人、庄原市役所9人
進行役4人、報道機関1人

はじめに

○あいさつ ○前回の振り返り、アンケート調査（結果概要） ○今日の進め方、講師の紹介

報告「東城における街並みづくり活動」

講師：榎原 節男 氏（東新会 代表） ※一級建築士、広島県ヘリテージマネージャー（歴史的建造物保存活用資格者）



「東新会」の歩み（概要） ・1991年設立

○1991～2001年：視察研修や各地のまちづくり団体などとの交流

○2002～2006年：地元木材を活用して製作した行灯設置、

○2006～2009年：木製灯籠16基、行灯200灯、木格子取付18組（地域へ無償寄付）

○2009～2014年：アンケート調査、空き家調査、「町並みづくりのガイドライン」の作成

「地域資源を活かして地域を創造する職能集団の会」設立

○2015年～：ヤマモトロックマシン旧自治寮の本格活用の準備（トヨタ財団助成）

平成28年2月25日 国登録有形文化財として指定を受ける

アイデア・取組の掘り下げ（班ごと）

A・B班『ルールづくり・施設整備班』

- ・目指したい将来の街並みの姿
- ・歴史的建造物の保存・修繕で必要なこと、大変なこと
- ・街並みを魅力的にする、ゆるやかなルールづくり
- ・付属物等のあり方

C・D班『観光交流・地域生活班』

- ・活性化の基本的方向やプロジェクトなどの例・案の説明
- ・アイデアの追加・内容の掘り下げ
- ・取組主体・体制の検討
- ・具体化に向けた取り組み方策



全体会

○アドバイザー（松田智仁 氏：広島大学教授、福田由美子 氏：広島工業大学教授）のコメント

○次回（第4回）の案内：平成28年3月16日（水） 19:00～ 会場：東城自治振興センター

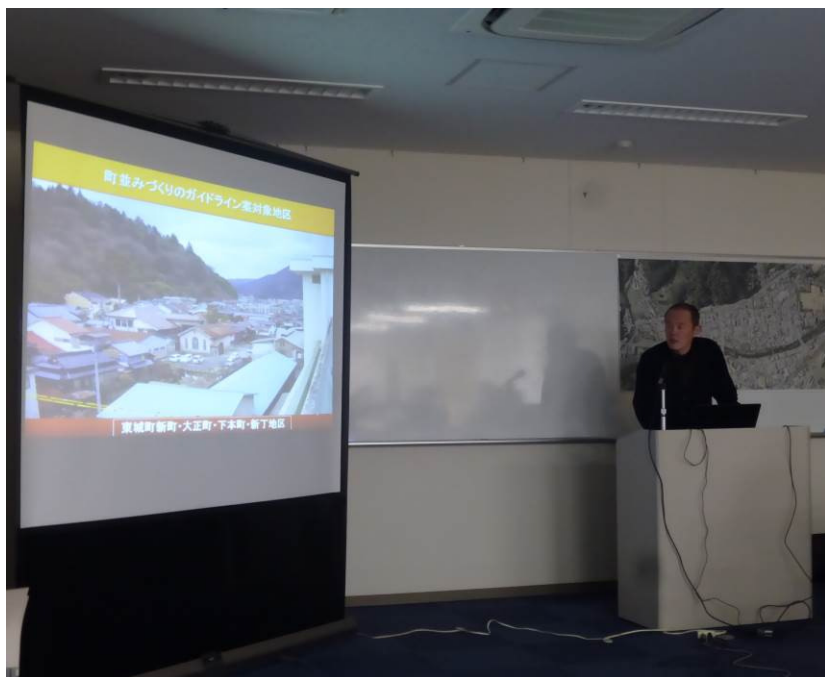
テーマ 『まちづくりのアイデアを掘り下げよう（その2）』

報告『東城における街並みづくり活動』

～歴史ある町並み景観の維持・管理・整備のルールづくり等の活動について～
(櫻原 節男 氏 [東新会代表])

講演の要旨

- 歴史ある町並み景観の維持・管理・整備のルールづくりや、町並みの景観づくり活動について講演されました。
- まず、「地域の財産である町並み景観を住民が守り将来に伝える」ことを町並みづくり活動の目的とし、「町並みづくりのガイドライン」をつくっていること。また、その実現においては、「知識の共有：ワークショップの実施」「手法・手段：町並み調査、アンケート調査、聞き取りの実施」「配慮：ガイドラインの理解を前提に、できることから行うこと」「自主性：取組の強制はしないこと」を柱にしているということです。
- 町並み景観づくりの手段として、東新会会員や地元住民により、地元木材を活用した灯籠、行灯の製作を行い主要ポイントへの灯籠設置や各戸への行灯配布を行っているほか、街中の既設木格子調査と木格子製作を行い、空調室外機への目隠しなどとして木格子を取り付けされていることが紹介されました。
- その他にも、木製ポストや表札、電機メータボックスカバーの製作や、草木染め職人・刺し子作家との共同作業による草木染め刺し子のれんの製作、社会福祉法人との連携による木製プランターによる植栽活動といった様々な活動についても紹介されました。
- 活動の成果として、街道東城路沿道を中心に木製灯籠 16 基、小路名入り行灯 17 灯、行灯約 200 灯、刺し子のれん 10 振、木格子取付 18 箇所、プランター多数などにより修景活動が行われていると語られました。
- 町並み景観のルールづくりでは、広島市安佐北区可部町折目地区への先進地視察や、専門家・建築士・住民による町並み・建物調査、地区住民に対する意識アンケート調査などを行うとともに、ワークショップによってガイドライン案の内容や周知方法、住民との合意形成の検討を行い、案が固まった段階で住民説明会を行ってきたことを紹介されました。
- ガイドライン案を作成する上では、自主性を重んじ、各々が趣旨を理解し取り組みの強制はしないこと、ガイドライン案の趣旨を理解してできることから行っていくという配慮が重要であると語られました。
- 現在では、ガイドライン案の趣旨に沿った外観の建築物ができ、町並みの景観づくりにつながっていること、外部団体との交流や意見交流会などが行われ、地域外のファンづくりにもつながっているとのこと。
- 今後の課題としては、街道東城路沿道を考えることと同時に、工事中である国道314号バイパス沿いにも多くの町並み資源があることから、対応を考えていく必要があるとされました。



木製灯籠と修景された郵便受け



室外機への木格子の取り付け

【第3回ワークショップの協議の内容】 ※ワークショップにおける意見の紹介

A・B班(ルールづくり・施設整備班)

区分	意見概要
歴史的建築物の基準	・新町は87%以上が築50年以上 ・あるがままに古い物を活かす ・昭和20年頃の写真を集める(それ以前の写真も)、東城今昔～写真展～ ・町史や昔の写真を見て、古い建物の基準を検討
歴史的建築物等の保存・修繕(修理)	・ひさしやテントを板暖簾にして日除けに ・ひよけやテントはデザインや素材を考えて ・使いやすい支援制度が必要 ・現状制度(まちなか活性化補助金)の50万円では少ない ・後継者がいるかどうか、今後維持できるかどうかにつながる ・空き家・空店舗をどうするか ・雨漏りなどで建て替えの意向もある ・昔のままを維持すると、奥行きが長い事や機密性が低い事が問題
建築物のルール全般	・歴史的建築物や準歴史的建築物という言葉を出さない方がよいのではないか ・全体としての統一的な方向を記載した方がよい
建物の位置等	・ルール化は難しい(例を示す位は良い) ・上町と中町と下町はそれぞれに違いがある ・数値的なものは示さなくても、周囲と合わせるようにすれば、自ずと1m程度は下がるのでは
高さ	・新たに建てる場合はできるだけ2階以下で ・現在3階建て以上の建物は配慮する
色彩	・街道沿いなどは黒、銀黒が基本(屋根) ・瓦も板金葺も基本的には同じルールにしてはどうか ・地域性と景気状況で瓦の色が異なる(不景気だと銀黒系になる) ・クオリティを求める(素材、色) ・木は素材そのもの又は素材を活かす色・塗装 ・柿渋などの活用、クルミ油もある
屋根	・町家にふさわしい屋根の素材 ・下町は屋根の形状を揃えることも ・中町などは現状の姿を基本に(変化に特色がある) ・あるがままを大切に
外壁	・「自然の風合いや質感」や専門用語などは平易な言葉で表現できると良い
その他伝統的意匠など	・板暖簾の下などに付ける「暖簾」が効果的でアピールできる(補助すべき) ・格子、板暖簾など伝統的なものにすると補助を(新設、更新など)
塀・門等	・ブロック塀をルールに合うようにする場合は補助 ・一番いい形を示し、ブロック塀に関する記載は特記する必要はない
その他	・自販機の修景を木格子で囲うのはやり過ぎ(他地域の例)、色を黒やこげ茶にする程度でよい ・地区等ゾーン別ガイドラインの方向付け など

C・D班(観光交流・地域生活班)

区分	意見概要
目指したい姿 取組方	・人がどのくらい来れば良いのか(目標)。多い方が良いのか、質の高い人が良いのか ・人が来るとゴミだけ置いて帰る。それは迷惑 ・脱観光交流も検討 ・東城路だけでなく、周辺を含め面的な取組 ・地域づくりがメイン ・疲れない取組 ・地域の人に魅力があると人も集まる ・経営者の募集(高齢化、後継ぎ) ・改修の助成 ・面白いことを興味や関心のある人へ発信 ・第2回「まちの歴史(むかし)を語る会」の集まり(70～80代の女性の会など)
アイデアの追加・掘り 下げ	・商店街の変遷を再現 ・まちの生業(馬、置物)を活かす ・面白い話をネタ帳に ・ニッチ(スキマ的)な話が面白い(ネタ帳) ・ネタ帳の編集者募集 ・聞く、見る、触れる、食べる、しゃべる の五感にうったえる ・例:新丁物語、親不孝通り秘話、東城百話 ・22世紀に残したいもの・こと ・三楽荘の活用 ・雪消しナベ(三楽荘) ・ことば、広島弁(東城弁)の継承・活用 ・とりあえず発信する ・SNSをどう活用するか ・大学との連携 ・取り組む仲間づくり ・タブレット等をガイド時に活用。逸話や昔の写真など ・まちガイドタブレット ・整理したものをどうPRするか ・地域課題型研究
主な取組主体・場 担い手	・上町茶屋、上町自治会 ・ギャラリーで展示 ・担い手:中学生、高校生(聞き取り)、大学生(データ化)、小学生(昔ばなし)、地域内の大人(サポート)、観光客
東城路への愛着育成 プロジェクト	・子育て世代が親子で楽しい雛祭りを ・昔話紙芝居の作成(教育・観光・愛着) ・既婚、未婚、子ども関係なく30代～40代の声を聞いてみたい。実際に住んでみて良いこと、もっとうしてみたいこと、体験談など ・くたびれないおもてなし。やり過ぎない
東城路丸ごと体験プ ロジェクト	・日常の生活を見せるのはどうか(話をしたくない人もいる) ・イベントの目玉(ひな人形を一箇所に全部集めるなどで強いインパクトを) ・インバウンド(外国人旅行者)への体験提供 ・まちづくり意識の共有 ・近隣ネットワークづくり、合意形成で輪を拡げる ・イベントの場として提供(研修、見る、食べる、宿泊など)
商店街おもてなしプロ ジェクト	・ガイドブックには載らない話題の話が聞きたい(ガイドの育成) ・東城の街並みの滞在時間を延ばすには? 半日は持つが1日にするには? ・ちょっと休む処は人の目が気にならない場所に ・まちづくりの意識差(自分たちは関係ない)の解消
その他	・お金の入る(回る)仕組みづくり ・情報共有できる場づくり→協力体制づくり ・民泊型修学旅行の受け入れ(次世代のファンづくり) ・空き家を手づくり改修 など

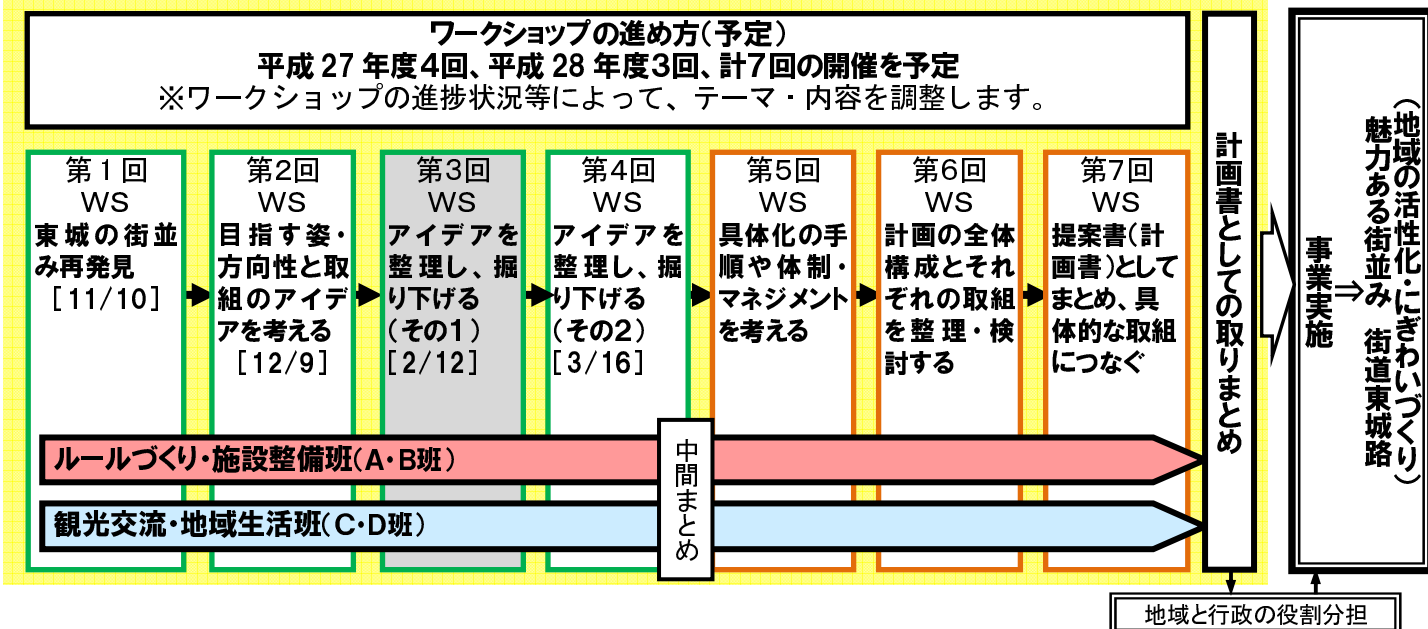
アドバイザーからのコメント

(松田智仁先生[広島大学教授])

- 街並み景観のルールづくりの深掘りを行っていく中で、東城路自体も、また、背後の住宅地、河川沿い、バイパス沿い等と、ゾーニングを行い、それぞれに特徴を持たせていくことについても検討が必要と思います。
- 時間軸を意識し、古い写真などを参考にしながら、街を元の状況に戻していくことも一つの手法です。各戸に眠る古い写真を集め、劣化しないようにスキャンして、解説を付けて、昔懐かしい写真館のような形の中で検討すると、誘導していくデザインの方向性が見えてくるかも知れません。是非。
- 街を四季の変化で彩る方法として、植栽があげられます。例えばプランターやシンボルツリー、生垣があれば風景に変化が起きます。春の東城川沿いのサクラ並木に加え、秋には、モミジなどがあると魅力的です。
- 観光交流について、暖簾やベンチなど街並みのグッズがあると良いと思いますが、ヒノキの間伐材を利用し若手作家に創作してもらうコンテストを開催するなど、イベント化すれば作成の段階から人が集まってきます。
- また、デザイン化した案内板を作成することで、当面はまちガイド体制が整わなくても観光客は東城の素晴らしさを学ぶことができます。これもヒノキの間伐材を上手く使えば、東城ヒノキのPRに役立ちます。
- 4月の雛祭りのイベント時に来訪者インタビューをこのメンバーで行ってみれば、まちへの期待などがわかると思います。

(福田由美子先生[広島工業大学教授])

- 観光交流では、観光客としてどういうタイプを対象とするのかという意見が出たのは良かったと思います。名所や観光地を訪ねる以外に、滞在型・体験型も考えてはどうでしょうか。
- 有名なものではなくスキマ的な話が面白いので、新しいツールで外部に発信できればよいと思いました。
- 様々な行事を地元住民だけで行うことは大変なので、高校生に協力をお願いする他に、外部の人をいかに巻き込むかが大切になります。雛祭りの飾り付け、掃除をイベント化し体験型にするなどが考えられます。
- 今回のワークショップが終了した後も、このような話し合いの場が続くよう、楽しく、長続きするクラブ活動のようなものができることを期待します。
- 大きな地図を広げたり、昔の写真を見たりするだけでも、その当時のことを思い出します。そしてさらに情報が集まり、人が集まってくるようになります。そういったきっかけをつくっていくことも大切であると思いました。



問い合わせ・連絡先

〒727-8501 庄原市中本町一丁目 10 番 1 号
庄原市 都市整備課 担当：福田
電話：(0824) 73-1173 FAX：(0824) 73-1147
E-mail：toshi-shigaichi@city.shobara.lg.jp

～街並みづくりやまちづくりに関わるご意見なども、お寄せください～